

【ポスター発表】

社会福祉専門職教育におけるメンター活動 ー実習指導支援演習履修者へのアンケートからー

○ 日本福祉大学 二本柳 覚 (6983)

鈴木 由美子 (日本福祉大学・5566), 寺澤 法弘 (日本福祉大学・5898)

高梨 未紀 (日本福祉大学・4715), 江原 隆宜 (日本福祉大学・3816)

吉村 美由紀 (東海学院大学・7366), 村田 泰弘 (日本福祉大学・6603)

キーワード: メンター・専門職教育・実習指導

1. 研究目的

N大学では、2009年度より4年次開講科目として実習指導支援演習を開講している。実習指導支援演習ではその目的を「社会福祉援助技術現場実習を経験した4年生が、2年生（編入生は3年配置）の受講するソーシャルワーク実習基礎指導Ⅰ・Ⅱの授業に下級生のアドバイザーとして参加し、スーパービジョンの課題と方法の基礎を習得すること」としており、実習前年度教育を受ける学生に対して、すでに実習を経験した立場の学生として関わるものである。ここでは、すでに実習を体験した4年生を、2年生に対するメンターとしている。具体的には、実習指導支援演習履修者（以下、メンター）がソーシャルワーク実習基礎指導Ⅰ・Ⅱの講義に参加し、ソーシャルワーク実習基礎指導Ⅰ・Ⅱを履修している学生（以下、メンティ）に対して実習体験の伝達やグループワークの進め方、内容についてのアドバイスを行う。これらによりメンティとしては実習教育の受け方、実習という学習方法、その意義と目的について、より具体的に学習する機会となると考えている。

しかし、メンター制度自体は、どちらかと言えば企業等の組織内で運営されていることが多く、大学教育においてメンターを制度として運用している大学はそれほど多くなく、N大学のように特定の講義科目としてメンターを取り入れている大学は確認する限り見当たらない。また、現時点で実習指導支援演習が履修者に対してどのような影響を与えたのか、その把握は十分に行えていない。

そこで本研究は、N大学で開講している実習指導支援演習において実施されているメンター活動がメンター自身に与えた影響について明らかにすることを目的として実施した。

2. 研究の視点および方法

調査対象は2011年度に実習指導支援演習を受講した学生17名とした。調査方法は、郵送法による自記式アンケート調査とし、【メンターになるきっかけ】【メンターになる前に期待していたこと】【メンターになる前に不安だったこと】【メンターをやってみてよかったと思うこと】【もっとこうしかったこと】【持っていることが望ましい能力】について、

箇条書きで内容ごとに記載を求めた。

調査結果については KJ 法的手法によってデータとして整理し、意味内容からそれぞれ類型化を行った。類型化は、まず箇条書きで書かれた内容についてコード化するために整理を行った。なお一文で 2 つ以上の内容が記載されているものについては分割を行った。アンケートの項目毎に整理を行い、そこで生まれた小グループを「下位カテゴリー」として分類し要約した。更に「下位カテゴリー」を整理してグループ化を行い「上位カテゴリー」として分類した。なお類型化を行う際には、主担当者が整理した後、分類の客観性、妥当性を図るため、実習指導支援演習教育に関わりのある教員 6 名を交えて検討を行った。

3. 倫理的配慮

調査対象者には発送前に口頭で本研究の内容について説明を行った。その際、調査結果については個人名がわからないように処理を行うこと、また本調査の返送の有無、回答内容が成績に影響をしないことについても伝え同意を得た。

4. 研究結果

アンケートの対象は 17 名、回収数は 14 名、回収率は 82.4%であった。回答者の属性は男女比が男性 4 名、女性 10 名、受講時限は 2 限が 5 名、4 限 5 名、5 限 4 名であった。

回答については、全体で 192 のコードを得た。設問毎のコード数は【メンターになるきっかけ】が 34, 【メンターになる前に期待していたこと】23, 【メンターになる前に不安だったこと】31, 【メンターをやってみてよかったと思うこと】41, 【もっとこうしかったこと】28, 【持っていることが望ましい能力】35 である。また、其々の項目について上位カテゴリー、下位カテゴリーを生成した。カテゴリーの内容については当日発表する。

5. 考察

今回の調査によって実習指導支援演習履修者は、メンター活動によって実習の振り返りや、人と関わっていく上で必要な力の習得など、様々な形で自己の成長を獲得することが出来ていることが考えられた。

またコミュニケーション能力の向上はもちろん、受容や非審判的態度などの **Biestek, F.P.** によって示されたケースワークの原則に代表される、卒業後ソーシャルワーカーとして活動していく上で必要となる考え方などについて、体験を通して学ぶ機会にもなることがアンケート結果から示されており、これらの結果からメンター活動は一種の OJT とも考えられる。実習指導支援演習においても、4 年生という社会に出ていくことが迫っている時期だからこそ、メンター活動を行うことによって、ソーシャルワーカーとしての職能成長や、各社会福祉領域で活動をしていく上で必要となる人や地域の繋がりを構築するための下地を整えることができるのではないだろうか。